

令3年度市政懇談会記録調書

【地 区】	大島中学区
【日 時】	令和3年7月12日(月) 午後2時00分～午後3時30分
【場 所】	大島コミュニティセンター
【参加人数】	16人

目次

大島中学区.....	1
事前質問.....	2
事前質問なし.....	2
懇談質問.....	2
1 コミュニティ・スクールについて.....	2
2 コミュニティ・スクールについて (東大島自治会).....	3
3 コミュニティ・スクールについて (大島コミセン地区地域づくりの会).....	4
4 ワクチン接種について (外野自治会).....	4
5 ワクチン接種予約システムについて.....	6
6 地域の高齢化について (六ツ野自治会).....	7
7 ひたちなか祭りについて.....	8
8 植樹升の花木について (大島コミセン地区地域づくりの会).....	9
9 ワクチン接種について.....	9
10 敬老会及び勝田マラソンについて.....	10
11 自治会への ICT 機器配布について.....	11
市長まとめ.....	12

事前質問

事前質問なし

懇談質問

1 コミュニティ・スクールについて

コミュニティ・スクールというのは、これまでのPTA プラス地域の人や先生も含めて、合議制で何か地域の物事を決めていきたいと思いますという組織であると認識したが、代表者が誰なのかも窓口がどうなっているのかも不明であるため、もう少し分かりやすく教えていただきたい。

(教育長回答)

コミュニティ・スクールは、地域のことを決めていくというのではなく、学校のこと、学校で何をやっていくか、どうしていくかということを決めていくものです。

まずは、この地域で、例えば大島地区の子供たちを、どういう子供たちを目指して育てていくかということをお話し合います。校長がこんな子供たちを僕は育てたいというのではなく、地域で地域の子供たちをどう育てていくのかというのを協議し、その目標に向かって地域と学校の中でこんなことをしていこうという話し合いのもとに一つひとつ物事を決めていくものです。

例えば、今年の運動会はどうしようとなった時、今までだと校長や学校の先生が全て決定していたところが、このような運動会を計画しているのですがいかがでしょうかと協議会に投げかけます。それに対し、保護者としてはこういうこともやってもらいたいですが、地域としてはこんなふうにしていったらいいですよなどと話をして決めていきます。

また、通学路の問題なども、このコミュニティ・スクールで学校・保護者・地域等それぞれの問題を出し合って、学校としてどうしていくかをみんなで話し合っていくということも考えられます。それから地域防災についても、一緒に訓練をしていくということも考えられると思います。

ひたちなか市の各地域は、それぞれ地域が非常に学校に協力的なので、改めてというよりは、今まであったところをもっとスムーズにしたような形にしたいと私は感じております。

まず今年はトライの年なので、学校の先生たちの話を聞きますと、まずは学校単位でやりたいということなので学校単位でスタートしました。

(市長回答)

今回この学校運営協議会というものを新たに設置するものですが、これまで評議委員会があったことはご存知でしょうか。評議委員を地域から出してもらって学校に意見を言う仕組みでしたが、あくまでご意見を賜るという形でした。今度の学校運営協議会の各代表は、意見を言って、さらに校長が示す学校の運営の基本方針を承認することになります。だから、

権限が少し大きくなることで、地域のいろんな考え方を学校の方針に盛り込みやすくなるというような考え方もあります。

これまでよりも、よりその地域の方々が運営に入ってくるような形を目指していくという中で、具体的な防災や催事等のテーマについて話し合っていくのは、今後になっていくと思っています。

まず今年、この学校運営協議会というのをまずは立ち上げているというような状況であるので、今後その代表の方々にどんな話を学校に持っていけばいいのかという話が多分、自治会長さんの方にも話が来るのかなと思っていますので、まず現時点では、今までの評議員とは違い少し学校にコミットする度合いが大きくなることや、運営協議会のメンバーがこれから地域の中に出てくるというところをまず知っていただくということが本日の趣旨になります。

2 コミュニティ・スクールについて（東大島自治会）

確かにコミュニティ・スクールという考え方は分かるが、学校区と自治会等、地域のまとまりがリンクしているわけではないため、学校ごとにコミュニティ・スクールを設置するのであれば、学校区内の自治会の連携をとるような仕組みが必要になるのではないかと。その地域によって構築方法やカラーが違ってくると思う。

（教育長回答）

地区ごとにまとまりや色が違ったりするというのはいろいろあるかと思いますが、基本的には学校をどう動かしていくかということなので、先ほど申しましたように、学校の運営について委員のそれぞれの知見からご意見をいただきながら、一緒になって考えていただくということなので、市町村によっては中学校区ごとですとか、小学校区にしか作らないところもあります。ただ基本は学校なので、小学校区か中学校区というのが基本になっております。

ひたちなか市は、今年は小学校・中学校の両方でスタートし、この後どんなふうに変わっていくかやってみて改善はしていかななくてはいけないのですが、それぞれの学校の特色を持ったコミュニティ・スクールになると思います。まずは、学校の運営についていろいろご意見をいただき、ご協力いただくということです。

（市長回答）

運営協議会のメンバーの構成をどう考えるかという時、配慮すべきこととして、例えば東石川でいうと勝田一中に行く自治会と大島中に行く自治会があり、地域の代表といった時に、場合によってはそれぞれ委員を出していただくなどは必要になってくるかと思っています。

今のお話を受けて、例えば、外野小学校に行く方と前渡小学校に行く方が同じ自治会に同

居するという場合、どういうふうに配慮するかというのは地域の代表だけではなくて、専門家とか、PTAとか、いろんな代表がいる中で、もし地域の方の代表を選ぶという時にはバランスを取ることが必要になるというのは私としては感じたところです。ご指摘ありがとうございました。

3 コミュニティ・スクールについて（大島コミセン地区地域づくりの会）

コミュニティ・スクールの仕組みについて、学校運営協議会はどのぐらいの人員で運営されているのか。

また、今年度からスタートしているとのことだが、保護者代表、地域住民代表については、PTA会長、自治会長が委員となることが想定されるが、まだ自治会長は話を聞いていない様子であるので、どのようになっているのか伺いたい。

（教育長回答）

規模については、5名以上14名以内ということを教育委員会規則で決めております。ただ、美乃浜学園は前期と後期があるので例外となります。

実際には、今までの評議委員会の5名を基本にして14名以内で作るということになっております。それから構成メンバーですが、先ほど申しましたように、対象学校の所在する地域の住民、それから対象学校に在職する児童または生徒の保護者、それから、対象学校の運営に資する活動を行う者、それから学識経験者、その他学校や教育委員会が必要と認めるものをなどと、それぞれの代表ということで決めております。

地域住民代表は、地域によって、コミュニティの方や自治会の方などが想定されますが、一律にこれではなくてはというのは決めておりません。学校の方で判断して、模索しながらスタートしています。ただ、9月にスタートするという学校もあります。早いところは、6月にスタートしていますが、夏休みよく考えてからという学校もありまして、9月という学校もあります。

（市長回答）

大島中学校と東石川小学校、外野小学校ですので、その状況がどうなっているかは後程、資料提供をさせていただこうと思います。

コミュニティ・スクールとしてやっていくという方針は決めたけれども、まだそこが全部出揃っていないというような状況でありますので、3つの学校がどうなっているのかは、今手元に資料がないようですので、追って確認をさせていただきます。

4 ワクチン接種について（外野自治会）

65歳以上の接種券郵送について、郵送の地域ごとの時差により予約に不公平が生じていた。初めから、年齢を区切って接種券の送付をしていれば、スムーズにできたのではない

か。市長の考えを伺いたい。

(市長回答)

ワクチン接種の初動に関しては、いろいろ反省点はあるのも事実です。

いくつか整理すると、当初、2月、3月の時点で国から示されていたワクチンの配布スケジュールというのが大幅に遅れました。ですが、ある程度ここまで接種を見通してくれというような情報の齟齬があった上で、走りながら調整したというのが一つあります。

もっと早く、ワクチンが来て始められていれば、また違った展開もあったとは思っております。それと、ファイザーのワクチンというのが扱づらいワクチンだということで、最初、各お医者さんもそれから自治体も確実な扱いができる数量に限定して予定したというのも要因としてあります。

例えば、最初、集団接種は1日180名から始まりました。ですが、今は400から500名ぐらい、場合によっては800名ぐらいとどんどんキャパシティが増えています。徐々にいろいろなことが改善していているというところがありました。

5月10日、それから14日の予約枠は数千でしたが、6月7日の予約枠は1万3,000と、どんどんキャパシティが増えていたのは、やはり慣れがあつて急激に改善したというところがあると思います。そういった走りながら改善していく状況の中で、当初少し混乱があつたとは思っています。

それと、年齢の区切りについては、他の自治体で75歳以上とかを区切ったところもありますが、ひたちなか市は基本的には国の指針でやらせていただいている中で、この公平性と効率性というものは非常に今回考えなければいけないなということがあります。

ワクチンの性質上、一刻も早く、希望する人に1人でも多くワクチンを供給するということが効率上は良いはずですが、ですので、多少混乱しても、キャンセルがないようにどんどん打てば、結果として進んでいくという話である一方、不公平感というか、こっちが進んでないのにどうしてこっちになんだよという話もあると思います。こういう部分は、今回、大きくクローズアップされてしまいました。行政としてある程度の公平感を保ちつつも、ワクチン本来の目的からいうと、効率よく多くの人に早く打てれば、通常的生活というものが戻ってくるということもあるので、細かい部分で齟齬があつたということは十分認識しております。

65歳以上の方々若しくは60歳の方々を優先順位として高くしたというものは、重症化リスクが高いということで、この年代に多く打ってもらえれば病院の逼迫ということも少し解消されるわけです。ですので、少なくとも60歳以上の年齢の方々には、多少最初は混乱がありましたけれども、53の医療機関と三つの会場を確保できた時点でまず細分化するよりも一気に進めた方が結果としていいのかなど、いろいろな考え、状況はありましたが、決断したところでございます。

これはもちろん、後から検証して賛否もあつたということは承知しています。結果として

は、個々の最適化ということは難しかったけれども、全体としてはこれだけ進められたというところはあると思います。その評価は、皆さん方にもお任せしますし、我々の方も今後のことは考えさせていただいております。

少なくとも、今後はやはり若い世代になってくるとインターネットでの受け付けが多くなってきますので、例えば、同じ人数でも若い人の場合には混乱が少ないであろうということも知見としては出てくると思いますので、しっかりと検証します。こういうことは何度もあって欲しくないですけども、仮に、こういうような全員に接種するというこれまでにない歴史的な事業だと思っておりますが、そういったものが、もしあった場合には、混乱が少なくないようにしっかりと検証したいと思っております。

本当に、初動の際にご意見がたくさんあったことは、本当に申しわけなかったと思っております。

5 ワクチン接種予約システムについて

予約システムについて、予約後に「ご利用ありがとうございます。今後ともご愛顧のほどよろしくお願いいたします。」と表示され、相応しくないと感じた。仕様について、市でチェックはしなかったのか。

(市長回答)

市の職員だけでは受けきれないので、ひたちなか市は旅行会社を元請けにしています。コールセンターから予約の受け付けなど様々な業務があるため、民間の力を使っている状況です。

さらにシステム自体は、やはり短期間で仕上げたということで、ひたちなか市だけではなくて違うところでも利用されていたシステムを使っているという状況はあります。自衛隊でのシステムもひたちなか市と同じシステムだと聞いています。

今まであるものを組み合わせて作ったという中で、より快適性等、良いものができているのかという点では確かにいろいろご指摘をいただいているのは承知しております。しかし、今もう走り出しているものを途中でなかなか変えられないというのが実情です。当初やはり十分な時間がなく、本当に走りながら考えるというような状況でしたので、事後的にもう少しやりようがあったのではないかという部分があるのは承知しております。

ただ、どこかで一段落はつくと思います。今、月に3万回ぐらい打っているという話でありますので、ワクチンの供給がきちんとされるということが前提ですけれども、8～11月の4か月あると相当数打てることとなります。さらにこれには職域接種は計算に入っておりませんので、市内の大きな事業所で職員接種をやっていくということをさらにプラスされると、秋口ぐらいには、全体の対象者の7割ぐらいがいけるのではないかというところまで来ています。

そういう状況になれば、一定の区切りというのが出てきて、次の体制に移る時に、これま

でを踏まえた改善というところにたどり着くのかなと思っているところです。

もちろん、変えられるところは改善しながら、ただ、根幹的に変えると大混乱起きそうなところは、とりあえずこのままにしながら、何とか全体 13 万 6,000 人対象でありますけれども、その 7 割の今秋中の接種を目指して努力しているというところでありますので、お気付きの点があったら、ぜひお寄せいただいで、どこかのタイミングで直せるのであれば、直していくということも考えていきたいなというふうに思っています。

6 地域の高齢化について (六ツ野自治会)

六ツ野自治会は 900 戸 2,600 人で構成されている。65 歳以上の高齢化率は 39%、75 歳以上は 20%である。これまで地域の力で、運動会やお祭り等の行事を代々行ってきた。しかし、これまで精力的に地域づくりに携わってきた方達から、もう勘弁してくれという声も聞こえる。これはどうにもならないことだと思う。ひたちなか市全体としては、見かけ上、高齢化率は低く出ているが、地域づくりに携わる方の高齢化は進んでいる。これから市民協働による施策を進めるとしても、やれる人間が少なくなっているという事実を共有したい。

(市長回答)

私も感覚的としてご指摘のとおりと思います。ひたちなか市全体だと、今高齢化率が 28 から 29 ぐらいです。これは県平均よりも若いですが、自治会員を対象として見た時には確かにもう少し上がるのかなと思っています。

また、83 自治会ある中で、六ツ野自治会のように大きなところとか、100 人に満たないところとかいろいろあるところを、みんな同じように歩いていけるかという、そうでなくなる時期が来るのだろうかということは身構えとかなければいけないと思っています。

本当に人口の減少、高齢化というものが今後大きく速度を増してまいりますので、考えていかなきゃいけないと思います。その中で、決定打となるような改善策があるかという、なかなかそれは難しいというのは正直私も頭を悩ませているところです。ただ一つ、少しでも貢献できるような話があるかなと思っているのは、これは自治会の皆さんにもかねがねお願いしている自治会の IT 化で作業量が減ることにならないかということが 1 点。

それと、自治会の IT 化を進めることで、現役世代の方々やご婦人方が役員になれるような、そういうような省力化に繋がらないかというイメージの中で自治会の IT 化もお願いしているところです。

ちなみに、この 7 月から PTA の連絡事項はほぼデジタルでのやりとりになります。文書も、それから連絡も携帯電話か、パソコンで登録してもらってやりとりをするというのがほとんどになってきます。

そういうような世代が、例えば自治会の役員間での連絡事項や夜の会合を場合によってはデジタル空間である程度共有できるのだったら私もやれるよというような人たちが出てくると、少しブレークスルーするかなと思います。すべてではありませんと思いますけれど

も、そういった成功事例をぜひいろんな自治会で積み重ねていただいて、うちのまちではこういうふうな取り組みだ、少し役員のなり手が増えたよとか、そういうような知見を共有して増やしていきたいと思っています。

それと、やはり夏祭り等、地域にリアルに人が集まって交流するという事は、すごく大切だと思います。2年間、場合によってはこの秋も含めてできなくなる影響がどういうふうに出るかというのは非常に懸念していますし心配しているところです。

ワクチンの接種がこの後に間に合うかどうかということもありますけれども、市も考えているのですが、できる方向で調整をしていただいて、リアルで集まるそのノウハウというのが次の年に繋がるように我々も努力をさせていただきますので、地域の方もちょっとしたいでいただければありがたいなと思っています。

少子化、高齢化の問題かなり大きな変革ですので、こうすれば大丈夫ですという話はなかなか言えないのですが、一つひとつそういうものを組み合わせながら、今いる人たち今できないけれども、こうだったらできるかもしれないというものを模索していきたいなというふうに思っています。ぜひ一緒にこれからも考えていただければと思います。よろしく願いします。

7 ひたちなか祭りについて

50歳以下の若い方のワクチンの接種が未だはっきりしない状況の中、オリンピックの無観客開催、ロックフェスの中止等、大きなイベントの態度決定が出ている。ひたちなか祭りについては、規模を縮小してやるという話はなんとなく聞いているが、具体的にどのように実施するのか。

(市長回答)

ひたちなか祭りは、商工会議所青年部のメンバーが中心となって実行委員会を作って実施するものです。昨年はできなかったということで、今年は何とか規模を縮小してできないものかということとをずっと模索していたところで、今企画しているのが、一つはインターネットの中継によるオンラインの夏祭りです。イメージとしては、24時間テレビとかテレビ局でやっているようなイベントですとか、撮り貯めた映像を、夕方4時ぐらいから9時ぐらいまでお祭り仕様として流していくというようなイメージを考えているみたいです。

その中で、商工会議所の会議室をメインスタジオでやっていくのですが、そこにゲストが来て、いろいろお祭りのコンテンツを配信するということと、商工会議所の横に市の駐車場がありますが、そこにイベントスペースをいくつか置いてメインの舞台を作って、そこで何かしらやっているものを中継するというような規模のものを考えているというように聞いております。

ですので、リアルなもの映像等の両方を駆使したものでということですが、どちらかというと、映像メインで、隣でやっているものを映して、それを皆さんに配信するということ

をメインに考えていると聞いております。

それでリアルで集まるのも、一応、駐車場であるのでそれをどうするのかというのは、今までのたまり場とか幾つかそういうような経験値の中で、人がある程度は来るけれども、管理ができるような状況の中で、入場制限をしていくという考え方でやると聞いております。

だいた、今までのお祭りとは違うイメージになるかと思うのですが、何とかお祭りを止めないという彼らの考え方、それから、全然違う形であるかもしれないけれども、何か自分達だけでやれることを発信していきたいという思いを県のイベント実施に係るガイドラインに照らし合わせてできるような範囲の中で考えていると聞いております。

8 植樹升の花木について (大島コミセン地区地域づくりの会)

コミュニティセンター前の歩道の植樹升に植わっている木が成長し、通行の妨げになりそうであるため切りたいが、誰が植えたか不明である。どのように対応すればよいか。

(市長回答)

今日この後、広報広聴課の方で場所を特定させていただいて、必要な部署につなげていただきます。確かにどこが管理しているものなのかという部分はあると思いますので、個別に対応させていただきます

9 ワクチン接種について

20代や30代の若い人たちは、自分たちが重症化するリスクが少ないということもあって、接種を受けたくないというような意見も少なからず持っていると思う。そうすると、接種が進まないのではという懸念があるわけだが、進める一つの手だてとして職域接種がある。会社単位である程度の強制力というか、会社として管理するということなので、ある程度の効果があると思う。ワクチンの管理が少し難しくなる部分があるかもしれないが、市長としてはどのように考えているのか。

(市長回答)

職域接種の話はご指摘のとおり、1,000人以上の事業所が国に申請をして、それで接種体制を整えるというような話であります。

ただ、ひたちなか市の医師会も関わってきますので、ひたちなか市の方にも情報はいただいております。もう既に先週ぐらいから職域接種、ひたちなか市の事業所も含めて始まっていると聞いております。職域接種については、年齢とか、どういうふうな順番でやっていくのかというのは任されているわけですが、50代は先ほどのお話のように、ひたちなか市としてはもう今週、来週で接種券を送るので、接種券を持って来てもらえればいいという形なのですが、40代以降はリストを会社の方で作ってもらって、後から提出してもらってその接種券を市の方でお渡しするというようなことでやっていますので、確かに年齢関係

なく職域接種というのは今後進んでいくと思われています。

ワクチン接種は、強制接種ではなくて任意接種でありますので、重症化を避けたいとか、あとはかかっても重症化しないとか、かかりづらくなるという知見は他国でありますので、そういった情報を出しながら接種をしていない人は接種をしてくださいというようなお願いの仕方になっています。

今のところやっぱり、60歳以上、65歳以上の方々は、最初の想定はやはり7割そこそこかなと思っていたところ、それよりも高くなりそうなのですが、今後はやはりもう少し低くなる年齢層も出てくるのではないかなと思っています。

ただ、トータルとしてひたちなか市で13万6,000人ぐらい対象者いますけれども、トータルで7割ということが一つポイントになってくるのかなと思っています。

といいますのも、やはり集団免疫の考え方で、3人いた時に2人がワクチン接種をしていて1人打っていないにしても、打っている人はもちろんですが、打っていない人もかかりづらくなるというのが集団免疫の考え方というところもありますので、今後は進んでいく中で世代間あるとは思いますが、トータルとして7割位の接種率というのがひたちなか市において実現できるのかというのがポイントとなってくると思っております。

最終的に決めるのはご自身とお医者さんの指導ということになりますが、だいぶ副反応の状況や知見がひたちなか市でもたまってきております。

重症なアナフィラキシーショックの状況はひたちなか市においては今のところないというような話もあったり、今後わかりやすくそういった情報をお伝えして接種する、しないという判断の一つの手助けにしていこうと思っています。

私も発信の仕方には気を遣っています。打ってくださいとはなかなか言いづらいところがあって、打てる方は打ってくださいというような呼びかけをさせてもらっているところです。

ちなみに、64歳以下の方々が9万数千人いるので、先ほど6万人と言いましたけど、その7割なので6万5,6千人ぐらい打つと7割を超えるという形です。職域接種が入ってくると大体11月ぐらいまでにそのような状況になるのではないかと見立てているという状況です。

10 敬老会及び勝田マラソンについて

敬老会について見直しにより予算も増額され、今まで以上に参加者が多く大変喜んでい。参加者にワクチン接種状況について確認しているが、100%の方が接種済である。

また、ロック・イン・ジャパンが中止となる中、駅前地区商店街の宿泊施設、飲食店等は大変に疲弊している。そこで勝田マラソンについては、実施する方向で進めているのか伺いたい。

(市長回答)

敬老会については、今年、補助金積算方法が変わるということで、ご不安の声、ご心配の声も聞いているところでございます。もちろん全体としての見直しの提言はいただいておりますけれども、今年行う補助金の見直しに関しては、かねてより監査から市の補助金のあり方としてちょっと違うのではないかと指摘を受けております。そういった部分を見直し、ある程度、補助金として成立するような考え方で、かつ今までやっているようなやり方ができるように配慮をさせていただいたところであります。

ですので、基本的に今までこういうふうに行っているのだけでも、どのように補助金申請すればいいのかというようなことがありましたら、市の方にお問い合わせいただいて、もし不具合等があれば少し考えたいと思っておりますのでご理解をいただきたいと思っております。

それと勝田マラソンの件ですが、茨城県でマラソン大会を企画しているのが水戸の漫遊マラソンとひたちなかの勝田マラソンの2大会だけです。どちらも、今のところ規模を縮小して開催ということを模索しているところです。

これは日本陸連のガイドラインがありまして、こういうような基準でこういうふうな感染対策をしてくださいというものに則って、今準備をしているところです。大体、規模的にはどのぐらいになるかという、例年だとフルマラソンで1万7,000人のところ、8,000人ぐらい、10kmの部を4,000人と、半分ぐらいに減らしてやるということで考えております。

ワクチンの接種というのがあるのですが、やはり全国から人が集まってくるので全国の状態も見なければいけないというところはあります。何とかできるような方向で今は考えて実行委員会を動かしているというような状況です。

11月ぐらいに最終的な判断のタイミングが来るかと現時点では思っています。水戸漫遊マラソンが10月の末ぐらいでありますので、水戸の状況がひたちなか市は大変ポイントとなってくると思っています。

もちろん盲目的に進んでいるということではなく、規模を縮小しながらできる準備をしていきながら、様々な状況を見据えて最後判断していきたいと思っております。

当然、感染拡大は抑えなくてはならないし、人の健康を害するようなことも非常に配慮しなければなりません。一方で、経済活動も生き物みたいなところがあって、来年、再来年もというけれど、今、手当を打たなかったら続かない経済活動もあるというように認識しています。感染拡大防止と通常の経済活動の両立ということをおっしゃっておりますが、どこかではもう完全に相反する概念です。ここに非常に難しい舵取りがあると思っておりますけれども、様々な情報を分析しながら一つひとつ判断していきたいと思っております。

今のところやる方向で積み上げておりますので、その点だけご理解いただければと思います。

11 自治会への ICT 機器配布について

自治会の ICT 化を進めるということだが、学校の児童生徒にタブレットを配布しているように、83自治会に1自治会1台、WEB会議システムソフトを入れたタブレットを配布して

はどうか。

(市長回答)

自治会に対する ICT 機器等の補助については、5か年で3回エントリーできる補助金を去年から創設しています。これはタブレット自体の購入費も対象にしています。

額の件はあるかと思いますが、学校の方で入れているパソコンは5万円以下のパソコンです。ICT化を進めていくにあたって、タブレット等の単価が急激にこれから下がってくるはずですが。そういった状況も見据えながら、5万円の補助額が高いか安いかわかるのはあるかと思うのですが、タブレットも買える要綱になっておりますので、端末に係る情報を逆に我々の方からも出させていただいて、検討いただければと思います。あと、その受け手の方はもうほとんどは携帯電話になっていると思います。

学校のタブレットは、今回は行政で用意させていただきましたけども、今後ずっとその子供たちに行政がパソコン、タブレットを供給し続けられるかということ、またそれも話が出てくると思います。

今、携帯電話を全員が持っているという状況が場合によっては学校の方でも出てくるかもしれませんので、そのあたりは見据えながら補助をするのか、個人個人の活動の中で所要のものとなるか、ちょうど今、過渡期だと思いますので見極めていきたいと思っています。少なくとも端末に係る情報については、出させていただこうと思いますのでよろしく願いします。

市長まとめ

本当に限られた時間の中で、教育から自治会活動からイベントから様々な話題を出していただきました。その他にも、このコロナ禍が収まれば、観光をどうしていくとか、関係事項をどうしていくとか、いわゆる攻めの施策というのも出てくるのかなと思っていますが、まだ今年度は不透明な状況です。

いずれにいたしましても、こういった不透明な状況の中で、昨年から思っているのは、地域の皆さんとのコミュニケーション、情報のやりとりというのがすごく重要ということであり、かつ、直接会えないというところの難しさを感じているところです。

そういった中で、この懇談会をこういう形で開かせていただきましたけれども、今後もあるだけオンラインもありますけれども、そこは進めていきますけれども、こうやって直接、顔を見ながら生の声を届けられる機会を作っていきたいと思っていますので、その時にはまたご参集いただいて、さまざまなご意見を頂戴できればというふうに思っています。本日は大変貴重な時間をいただきました。今後ともよろしく願いします。